

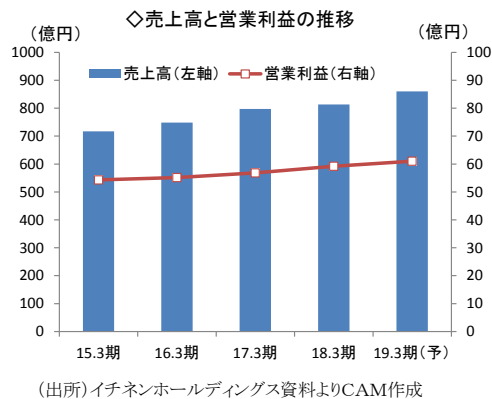
企業ニュース イチネンホールディングス

(東証1部：9619) <https://www.ichinendh.co.jp>

作成者：奥村義弘

自動車リースの中堅

1930年、黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始。1969年、商号を(株)イチネンに変更、自動車リース業を開始。2002年、パーキング業を開始。2008年、持株会社体制に移行、商号を現社名に変更。2012年、前田機工をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。2016年、イチネン農園を設立し、農業に参入。18.3期の売上高(セグメント利益)構成比は自動車リース関連57%(63%)、ケミカル14%(22%)、パーキング7%(12%)、機械工具販売16%(2%)、合成樹脂6%(2%)、その他0%(▲1%)。21.3期までの中期経営計画では、最終年度に売上高1,000億円超、営業利益100億円超が目標。M&Aを積極活用し、自動車分野以外で安定的に連結営業利益の10%以上を稼ぐ事業の柱の育成を目指す。



今期も利益進捗は順調、16期連続営業増益が視野に入る

19.3期・第3四半期累計(4-12月)の連結業績は売上高が651億6,500万円、前年同期比7%増、営業利益が48億7,200万円、同16%増、当期利益が42億7,100万円、同57%増。当期利益には18年8月にトヨタの子会社化による負ののれん発生益11億円の計上が含まれている。主力の自動車リース関連は同5%増収、セグメント利益は28億1,200万円、同13%増。リースでは地方市場や中小規模の企業を中心に新規販売を伸ばした。自動車メンテナンス受託では独自の自動車整備工場ネットワークによる高い点検実施率を強みとし契約台数を伸ばした。損益面では契約台数増に加え、燃料販売の仕入れ価格が安定的に推移した。ケミカル事業は0.6%減収、セグメント利益は9億2,500万円、同9%減。化学品関連での個人向け販売の減少が響いた。パーキング事業は同5%増収、セグメント利益は6億6,900万円、同28%増。新規駐車場の開発が順調で業績を伸ばさせた。

19.3期の通期会社計画は、売上高860億円、前期比6%増、営業利益が61億円、同3%増と9月の公表計画を据え置いた。16期連続の営業増益を計画している。第3四半期までの営業利益の進捗率は79.9%と堅調である。持続的な利益成長を遂げている点が好感できよう。

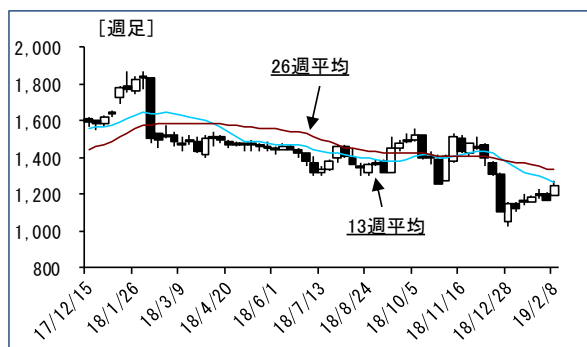
[株価動向・投資判断]

予想配当利回りは3%台、PBRの1倍割れなど割安な株価指標に注目したい。

<9619 イチネンHD 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	79,704 (6)	5,681 (3)	5,513 (▲0)	3,800 (3)	154.1	36.00
18.3	81,379 (2)	5,918 (4)	5,953 (8)	3,848 (1)	156.5	36.00
19.3 予	86,000 (6)	6,100 (3)	6,100 (3)	5,160 (34)	209.8	40.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/2/8)	1,244 円
昨年来高値(高値日)	1,867 円(18/1/15)
同 安値(安値日)	1,028 円(18/12/25)
予想PER(19.3予)	5.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,337.0 円
PBR	0.93 倍
予想配当利回り	3.22 %
(1株当たり配当金40.00円)	
ROE(18.3)	13.5 %
発行済み株式数	2,461 万株